

奥さまは
魔法少女

UNIKURAGE

Presents

For ADULT Only



■前書き

どうも、海栗です。
この度は当作品を手に取っていただき
ありがとうございます。
今回もまどか☆マギカマミさん本になりました
マミさんマジ天使
それでは少しでも楽しんでいただければ幸いです。

と言うことで原稿終わったのでKOF13やるし！
そう言えば雛子が13に参戦していれば
カラーでマミさん作れそうなのに…。

つかマミさんつて相撲強そう。



「ふー、今日は遅くなつたなあ…、あーあ、マミさん怒つてるかなあ

足早に帰路につく、マンションの外から自室を見るとまだ明かるい。
「よかつた、まだ起きてるな

ベルを鳴らす、少しの時間の後、ドアが開く。

「!?」突然、抱きしめられ口をふさがれる、

問答無用で舌が入つてくる
ここんなどころでこんな…。

何とか引きはがすと、涙目のマミさん…。

ふふふ

「ママミさん…突然どうしたの?」「馬鹿…連絡もしないで…寂しかつたんだから…」「ごめんね…突然仕事振られてさあ…」と、とりあえず中に入ろうよ

ママミさんは何か言いたげだったが、無理矢理中に押し込んだ。

部屋に入ると食卓に豪華な料理が並んでいた。

「あ…ごめん…マミさん…」「いいの…そんなことより…」

潤んだ目のマミさん…。

「と、とりあえず、ほん食べようよ、お腹空いた!」

「駄目ツ」と、熱く抱きしめてくる。

「ねえ…そんなことより…」「いい、いや…風呂も入りたいし…」

「いいのそんなことは!もう…我慢できないのよ…」

「そつ言つと唇が重なりマミさんの舌が絡んできた…。」「マミさん…」「欲しいの…ねえ…」

「…」までされたら否が応でもその気分になつてしまつ、一緒にベッドルームに行くとすぐに熱い肢体がのじかってきた…。

上着を脱がし、いたずらっぽく乳首を舌でもてあそぶマニさん。

「好きでしょ、これ、ふふ、乳首大きくなってきた♪」

ちゅぱつちゅぱつ、

さらりに激しく音を立てて乳首を吸われると

どうしようもなく股間が反応してしまう。

「す、ごおい、堅くなってる♥」

手で股間を弄り確かめると、

乳首を責めていた舌は

粘つゝく這いながら股間の方へ進み、

性器の先から滲みだしていた液を舐め取った。

男性器から舌に粘液が糸を引き

その光景が股間の方へ進み、

性器の先から滲みだしていた液を舐め取った。

「…もう、んなになつてる…」

嬉しそうに男性器に頬すりするマニさん…。

ちゅば
ちゅぱ

ちゅ、
ちゅ

まほ

一
ニ
ヤ
ン

むに

ニ
ヤ
ン

ひく

「口とおっぱいどどつちがいい?」
男性器を指先でもてあそびながら尋ねるマミちゃん。

「胸で…」

マミさんの豊かな胸を前に

が勝手に動いていた。

「そう言つと思つた♪」

着ていたワンピースを脱ぎ

その肢体を覗わにする、

ワンピースの下は何も着けていなかつた、

そしてその股間からは既に愛液が糸を引いていた…。

全裸になつたマミちゃんは
嬉しそうに男性器を口に含み湿りせると
胸で挟み上下に動き出す、

思わず熱い呻きのよつた声を出してしまつ。

「ふふつ、きもちいいんだ♥」

嬉しそうにわざと激しく胸を震わせるマミちゃん。

「きもちいい?おっぱいきもちいい?」

「マミさん……そんなにされたらもつ出ちゃうよ…」

「だめ、まだ出しちゃ駄目なんだから」



ねえ、今夜はすつと抱きしめて…
唇を重ねる、

「セ、我慢できないのぉ」
そうついつと自らの秘部に男性器を押し当て
今まさに挿入しようとした。
しかし、少しあれ悪戯心が芽生え、
わざとちよつとずらしてみる。
「ちよつとお、動かないでよ」
すねたような顔をするマニさん。

「マニさんも」つぶつやつとりは嫌いじゃないのか
いたずらっぽく笑うと舌なめずりをしてみせた。

「ねえいいでしょ」

熱くなっている秘部と擦れあ
これはこれで…気持ちいい…。
「ねえ・挿れていいでしょ」

「もう…ほんとに我慢できないの…」

そつ言つとマニヤさんは強引に男性器を挿入した、

いきなり痙攣しのけぞつた。
「あつあああああつ♥」
「あれつもついつちやつたの
「だつてえあんなに焦らされ

嬉しいえ





「♥♥たまごうす」
「うひさひほ…くひ…」
「すくに射精して、腰を激しく揺さぶる。」

騎乗位の体勢で、軽く腰を浮かせながら、口元へと手を運んで、

快感が絶頂に達して、ヒクヒクと身を震わせる。

「♥♥こじらかす」
「あそびかね」

「乳首を舐めたり、胸を揉むたり、量を増したり。」

その揺れる胸を愛撫する度、愛液は途切れ間なく流れ出された。

その大きな胸が、尻が揺れ動き出す。



「じゃあ…今度はあなたが上になつて
言われるがまま体位を入れ替える。

「ふふつ♥
だいしゅきホールド♥」

そつ言つと身体を手脚でギュッと押さえつけられてる。

「え? 何

「だいしゅきホールド、ひつかつわざ!♥」

マミさんはたまに変な単語を「口にする」とがある。
そんな茶目っ気が可愛かつたりもするんだけど、
だいしゅきホールド…、
名前はよく分からないけど…気持ちいい…。

熱くなつたマミさんの体温を感じ、
快美な吐息と喘ぎが耳に当たる、
汗と体液が混じり合つた匂いが鼻をくすぐる、
マミさんを全身で感じている、
マミさんがたまらなく愛おしい…。

「マミさん…好きだよ」
「私もお♥しゅきい♥しゅきなのお」
あつあああああつ♥





「きもちいいよマミさん
私もおきもちいいのおお♥♥♥」
舌が絡み合い、
股間が絡み合い、
二人で絶頂に達する…。

と、「ムを付けてなかつた事を思い出す。
「マミさんつーも、もうー」のままだと中にー」
「あはあ♥いいの、ねえ中にー中にちようだいー」

身体を引こうとする「マミさんの脚が強く絡みつく。
「マミさんーも、もう限界だよーー」
中に出しては駄目だと思ったのは一瞬…
自分の気持ちには抑えなかつた、
マミさんの中で出したい…
マミさんと一つになりたい…

すす

ああ、もういつそ仕事なんか辞めて
マミさんと毎日、一日中愛し合つてのも
いいかもなあ…。

なんてあり得ない妄想をしていると
流石に疲れが出てきたよつて、
うとうと…まどろみ始めた…。

その瞬間一突然股間をわしづかみにされる。

いきなりの事に驚くと、
目の前に天使のよつた笑顔が…。

「まだまだ、これからなんだから♥」

はは…もつなんにも」わくない…。

もつ「時か…
明日も…朝早くから仕事だな…
そう考へると少し憂鬱になる。

…でも、
横を向くと気持ちよさでつなマミさん、
マミさんの髪をなでる…
天使のような寝顔。

「いや、マミさんがいれば…何も恐くない…
幸せを噛みしめ自分も横になる。

…幸せそつた顔でくつたりと横たわるマミさん。
「満足してくれたみたいだな…」

もつ「時か…

明日も…朝早くから仕事だな…
そう考へると少し憂鬱になる。

…でも、
横を向くと気持ちよさでつなマミさん、
マミさんの髪をなでる…
天使のような寝顔。

「いや、マミさんがいれば…何も恐くない…
幸せを噛みしめ自分も横になる。

■後書き

巴マミはなんであんな幸せそうなの…

私なんてストーカー規制法に引っかかって
たつくんと鹿目家の半径140m以内に
近づいてはいけない事になったのに…。(ホヤリヨリ)

もういつそこうなつたら時間を巻く(ダメダメモモチャ)

と言うことで、ここまで呼んでくださった皆様
ありがとうございます。

次もまどか☆マギカ本作りたいなーと思っとります
また次の本でお会いできれば幸い。

それでは〜♪

海栗

■奥付

奥様は魔法少女
2011.12.31
うにくらげ

印刷所

PRINT-DEPO

ご意見ご感想は下記サイトからお願いします
<http://unikurage.sakura.ne.jp/>

当作品の無断転載
インターネットへのアップロードはご遠慮下さい。





